

第九回シンポジウムの開催にあたって

中国第一歴史檔案館副館長 趙 雄

尊敬する金武正八郎教育長

尊敬する尚弘子財団法人沖縄県文化振興会理事長

尊敬する本間勝沖縄県公文書館館長

尊敬する専門家、研究者、ご参加の皆様

青い海に青い空、鮮やかな花々と、私たちは十月の沖縄の美しさですっかり魅了されています。さて、第九回琉球・中国交渉史に関するシンポジウムの開催にあたり、中国第一歴史檔案館鄒愛蓮館長に代わり、また私たち訪問団一行六名および中国第一歴史檔案館の全職員を代表して、このシンポジウムが滞りなく開催されますことに、謹んでお祝い申し上げるとともに、ご出席の皆様にごあいさついたします。

一九九一年三月十八日、中国第一歴史檔案館と日本沖縄県教育委員会が相互交流協力の覚書を交わして以降、一九九六年三月、一九九八年十二月、二〇〇三年十二月と引き続き協議書を締結してきました。そして今日、私た

ちがともに手に手をとって協力してきた歳月は十八年になります。私たちは清代の檔案史料の出版、学術シンポジウムの開催、展示会の開催、研究者の交流等の形で、継続して中琉歴史関係の研究を促進させ、双方の理解と友好を深め、実りある成果を上げてまいりました。現在までに中国第一歴史檔案館は『清代中琉関係檔案選編』『統編』『三編』『四編』『五編』『六編』『七編』及び『清代琉球国王表奏文書』の八冊を整理出版し、そこに収録された檔案は約三〇〇〇件におよびます。また清朝の朝代毎に年次順に編輯し、さらに詳しく整理した清代中琉歴史関係檔案の出版は、すでに順治朝から乾隆朝までの四朝十二冊を刊行しています。これらの檔案は、中国第一歴史檔案館が所蔵する清代の中央国家机关である内閣、宮中、軍機処、内務府、礼部、国子監等の全宗檔案から出てきた史料です。その主要内容は、清朝政府が使者を派遣し琉球国王を冊封したことに關するもの、琉球国が清朝政府に派遣した進貢使、接貢使、および請封、接封、謝恩の使者に關するもの、琉球国が官生を国子監に留学させたことに關するもの、官生が受け取る生活用品や琉球への帰国に關するもの、中国の地方官がおこなう琉球の使者の送迎に關するもの、中琉貿易、文化交流に關するもの、海上における漂流遭難民の中琉の相互救助およびその護送帰国に關するもの、清朝政府が琉球船を略奪した海賊を逮捕することに關するもの、清の皇帝が琉球国王、王妃、使者に賞賜する物品に關するもの等です。これらの檔案史料は、清朝時期の中琉両国の友好往來を示す真実の記録であり、中琉歴史関係の研究にとって第一次資料となるものです。またこれらの檔案史料は出版の前に、すべてマイクロフィルムを作成して、『歴代宝案』の編集で活用できるように沖縄県教育委員会に分割して提供してきました。これら中国第一歴史檔案館が所蔵する檔案史料は、沖縄県が整理出版している『歴代宝案』と互いに補いあう史料であり、中琉歴史関係研究の成果であると言え、また同時に中琉歴史関係のさらなる研究のために、系統的で、豊富か

つ詳細な情報を提供する史料です。

十八年来、私たちは協力して九回のシンポジウムを開催し、政治、経済、文化、社会等の異なった角度から中琉の歴史について広く深く掘り下げた研究を行ってきました。新史料の発見と出版、檔案史料の校訂と研究、歴史問題の解釈と検討は、中琉歴史関係の研究内容を豊かにし、研究領域を広げ、中琉歴史関係に関わる幾つかの問題を明らかにし、さらに引き続き掘り下げて研究をおこなっています。

今回のシンポジウムに、中国第一歴史檔案館は四本の論文を提出しました。郭美蘭女史の「清朝の琉球国王及び来華使節への賞賜制度についての初步的研究」、王澈女史の「清朝廷中檔案に見る清代琉球人の漢文学習」、倪曉一女史の「清朝から賞賜された紡織品およびその儀礼的表象と文化的意味について」、李中勇氏の「英国人宣教師ベッテルハイムの琉球における布教活動についての中琉の交渉」で、それぞれが異なった視点から中琉関係の研究、検討をおこなっています。ところで、今回のシンポジウムに参加した四名ですが、彼らは私たち中国第一歴史檔案館で研究職に従事する中堅、若手の館員です。しかしながら、彼らは中琉歴史関係の研究に関して言えば、新人といえるでしょう。うち二人は年齢が三十歳にも達しておらず、これまでのシンポジウムの中でも最も若い研究者となります。この二人がシンポジウムに参加することは中琉歴史関係の研究に新たな活力を注ぎ込んでくれると思います。

長期にわたる友好的な協力は、中国第一歴史檔案館と沖縄県教育委員会がともに希望するものです。今回のシンポジウムは二〇〇三年に締結した協議書に基づいておこなわれる最後のシンポジウムとなりますが、同時に新たな協力関係の開始を事前に示してくれるものでもあります。二〇〇九年末、双方が締結した交流に関する協議書は有

効期限を迎えようとしています。私たちは、さらに深く掘り下げて系統的に檔案史料を発見すること、双方の学術交流を中断することなく促進し、友好を深めていくことの主旨に基づいて、積極的に協力と交流を展開していきたいと願っております。これまでの交流事業の成功は、これからの協力のために、しっかりとした基礎を築き、そしてまた私たちを新たな協力への自信で満たしてくれています。この十八年の成功の基礎の上に、これからも変わることなく友好関係を保持し、引き続き双方が誠意をもって協力し、中琉歴史関係研究に関してさらに多くの豊富な成果を人びとの前に提示することができると信じております。

最後に、このシンポジウムの成功を祈念し、あいさついたします。

ありがとうございます。

二〇〇九年十月十八日

(翻訳 外間みどり)